

令和元年度 豊郷中央小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

(1)基本目標

「人間尊重の精神」を基盤に、激しい変化が予想される21世紀社会の担い手として、「心身共に健康で、主体的に考え表現でき、粘り強くがんばりぬき、自らの向上とよりよい社会の発展を目指し、たくましく生きる人間」の育成を図る。

(2)具体目標（目指す児童像）

- ・進んで学びよく考える子ども（主体性、思考・判断・表現）
 - ・思いやりがあり心豊かな子ども（生命尊重、豊かな心情）
 - ・元気でがんばる子ども（心身の健康、たくましさ）
- 《児童の合言葉 「かしこく なかよく たくましく」》

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

（目指す学校像） 活気のある 学び合う 保護者・地域と共に歩む

学校は共に学ぶ場である。これからの時代には、他者と適切に関わったり、チームを組んで協働で仕事をしたりすることなどがますます重要となり、自分から進んで他者と関わり、異なる考えから新たな発想を生み出すような創造的な学びが求められている。そのためには、安全な学校生活が送れるように整備された、ゆとりと潤いのある環境のもとで、児童が学び合い、高め合うことができるようにしたい。その結果、児童一人一人の中に自己実現の喜びや自己肯定感などが育まれ、児童の笑顔を見ることができると期待する。また、児童だけが共に学び合うだけでなく、その成長を支える教職員も保護者も共に学び育ち合う場としての学校でありたい。共に学び合い、成長していく場としての学校づくりが重要である。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 児童及び地域の実態を踏まえ、知・徳・体の調和を図りながら、社会に開かれた教育課程を編成して資質・能力を育み、教育目標の実現に努める。
- (2) 教職員の共通理解のもと、児童がよさや自主性を発揮したり協働したりできる学校づくりに努める。
- (3) 職員が日々の研究と修養に努めることを推進するとともに、同僚性と自律性を基盤にした職場づくりに努める。
- (4) ○地域学校園内の小中学校及び地域との連携を深め、義務教育9年間を見通した系統的・継続的な指導の充実に努める。
- (5) 地域とともにある学校づくりを推進し、家庭・地域・関係機関との連携協力体制の強化に努める。
- (6) 学校教育目標達成のために、校内業務の適正化(明確化や簡略化等)を図り、教職員の健康安全を大切にし、指導の質的向上に配慮しつつ持続可能な学校体制づくりに努める。

[豊郷地域学校園教育ビジョン]

- ・学力の向上と学習態度・習慣の確立
- ・豊かな心と社会性の育成
- ・健やかな体の育成と活力ある生活の確立
- ・活気あふれる学校づくりの推進と地域・家庭との相互連携・協力

4 教育課程編成の方針

- (1) 日本国憲法、教育基本法、学校教育法及び同施行規則、小学校学習指導要領、教育振興基本計画、栃木県・宇都宮市教育委員会の方針(重点等を含む)、第2次宇都宮市学校教育スタンダード、宇都宮市の小中一貫教育の示すところに従うとともに、本校の教育目標達成のための経営方針、本年度の本校の重点目標等を十分踏まえて編成する。
- (2) 児童の発達段階や各教科領域の特性を踏まえ、全教育活動をととして「心身ともに健康で、主体的に考え表現でき、粘り強く頑張りぬき、自らの向上とよりよい社会の発展を目指し、たくましく生きる人間」の育成を目指した教育課程を編成する。
- (3) 社会の変化に主体的に対応できる能力の育成や創造力の伸長を重視し、自ら学び、自ら考え、主体的に判断、行動し、よりよく問題解決する資質や能力を育てる教育課程を編成する。
- (4) 本校創立以来146年の歴史と伝統を踏まえ、学校・地域の特色、児童の実態などを考慮し、創意工夫された教育活動を展開することによって、人間性豊かな児童の育成を目指す。
- (5) 「地域から学ぶ学校」をテーマとして、特色ある学校づくりに取り組み、地域人材や地域素材の積極的な活用による体験活動を推進する。
- (6) 基礎・基本の定着と本校の特色を生かした教育の実施に向け、学習指導法の工夫・改善を図る。
- (7) 「社会的な変化を視野に入れ、それに対応できる資質・能力を身に付ける」という視点から、教育活動全般を見直しその改善に努める。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】
・ 学校経営のビジョンを教職員で共通理解し、課題に対して協働して取り組む体制づくりを進める。
○ 学校園の教育活動における小中一貫教育の取組を推進する。
【学 習 指 導】
・ 授業のねらいを明確化し、主体的・対話的で深い学びをととして資質・能力を育成する授業づくり、学び合う授業づくりに取り組み、知識及び技能の習得、思考力・判断力・表現力等の育成、学びに向かう力・人間性等の涵養に努める。
○ 家庭学習習慣の定着を図る。
【児 童 生 徒 指 導】
○ 挨拶や時と場に応じた言葉遣いなど、きまりやマナーを守る児童を育成する。
・ 児童の自己肯定感を高めたり、感謝の心を育んだりする。
・ 縦割り班活動や学級経営をととして適切な人間関係づくり推進し、不適応やいじめの防止に努める。
【健康（体力・保健・食・安全）】
○ 夏期の水泳、秋期の持久走、冬期のなわとびの各種検定を実施し、教育活動全体をととして児童の発達の段階に応じた日常における体育的指導の充実に努める。
・ 日常の指導に加え、交通安全教室や地震・火災・竜巻・Jアラート・不審者対応の避難訓練などを実施し、児童の危機回避能力の向上に努める。

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目 指 す	A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 「児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒ 児童 85%以上	・発達段階に合わせた話し合いの型・話型を作成し活用するとともに、学び合いを通して、自分の考えを広げ深められる活動の充実に努める。 ・「できた」「わかった」という実感がもてるような学習活動を工夫する。また、子どものよさや活力を生かした授業の展開を実践する。 ・思考・判断・表現する活動を充実させるとともに、個人の学びを集団で練り上げる学び合いの場面では、比較・関係付け・分類・統合等の視点を大切に、対話的で深い学びへと導く。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 94.0% 【次年度の方針】 ・対話的な学びを進めていき、児童が主体的に学び合う環境づくりを行う。そのために、学び方の具体的な方策を示し、安心して自分の考えを伝えたり、自分たちで課題解決が図れたりできるような学習環境を整える。
	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上	・自分の考えを持つとともに相手の考えや思いを尊重し、相互に共有し、高め合える学級づくりに努める。 ・道徳科や学級活動などで、いじめや生命尊重、自他との関係を題材とした授業を実施する。 ・互いに支え合い励まし合える雰囲気づくりに努める。また、親切言動は賞賛し思いやりの心を育む。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 84.8% 【次年度の方針】 ・今後も継続し、学校全体で互いに支え合い励まし合える雰囲気づくりに努め、思いやりの心を育てていく。

児童の姿	A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 「児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上	・「みんなのやくそく」の項目を、生活目標に反映させて指導し、基本的生活習慣を朝の会などで確認しあい、さらに定着を図る。 ・道徳の授業の充実を図るとともに、日常生活の中で機会を捉えてきまりを守ることの大切さに気づかせる。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 83.8% 【次年度の方針】 ・今後も継続し、授業と生活のきまりやマナーを意識させていくための指導の工夫改善を全職員で取り組んでいく。
	A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上	・地域協議会や学校園などの地域ぐるみのあいさつ運動を展開するとともに、校内でも生活向上委員会を中心に「あいさつ運動」を実施し、教職員が進んであいさつしたり、言葉かけをしたりして、進んであいさつができるような雰囲気づくりに努める。 ・道徳や学級活動の時間に、あいさつや礼儀を扱い、その大切さに気づかせ、理解を深める。	B	(達成状況) 児童の肯定的回答率 91.5% 【次年度の方針】 ・生活向上委員会を中心としたあいさつ運動、学級輪番制のあいさつ運動、小中合同あいさつ運動を継続して実施していく。
	A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上	・学期ごとの学習や生活のめあてを立て、あきらめずに取り組めるよう、励ましの声をかけ、支援する。 ・道徳の授業などにおいて、自分の良さや適性、将来の夢や目標について考えさせる。また、それに向かって努力することの大切さ、その尊さについて気付かせる。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 89.2% 【次年度の方針】 ・今後も学期ごとにめあてを立てるとともに、定期的に振り返り、達成するためには何が必要なのかを考えたり、目標に向かって粘り強く取り組んでいる児童を称賛したりして引き続き指導していく。
	A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上	・地域学校園の食育推進と、家庭との連携協力により、地域の食材への関心や栄養に関する知識を深め、食に対する意識を高める。 ・ドッジボール大会、豊央ランナー、大縄大会の実施や各種検定の実施、「豊央サーキットトレーニング」の実施により、体力向上を図る。 ・交通安全教室、避難訓練、引渡し訓練をとおした、正しい判断力と危機回避能力を育成する。また、児童が安全に関する情報を正しく判断し、安全のための行動に結び付けることができるよう、各教科、道徳科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動等、学校の教育活動全体をとおして、安全に関する指導の徹底を図る。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 87.4% 数値指標より2.4ポイント増で達成している。 【次年度の方針】 ・学校からの便り等を通し、地域学校園の食育推進と、家庭との連携協力をより深め、意識を高める。 ・各大会や各種検定、「豊央サーキットトレーニング」等の実施により、体力向上を図る。 ・交通安全教室、避難訓練、引渡し訓練等から、正しい判断力と危機回避能力を育成する。安全に関する情報を正しく判断し、安全のための行動に結び付けることができるよう、学校の教育活動全体を通して、安全に関する指導の徹底をより一層図る。

A7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上	・自立意欲や社会性を育成するための基礎づくりとして、キャリア教育を推進し、他者と積極的に関わることや社会的関心を高められるよう支援する。 ・様々な機会に、自分の役割を果たし、最後までやり遂げ、達成感を味わえるような支援を心掛ける。	【達成状況】 児童の肯定的回答率 89.2% 【次年度の方針】 ・今後も地域の人材を活用する取り組みを各学年で行い、他者と積極的に関わる機会を設け、児童の社会的関心を高めていく。 ・各学級で一人一役の当番活動を行う等、自分の役割を果たす達成感を味わえるように支援していく。
A8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 「児童は、外国語活動の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」 における肯定的回答 ⇒児童 80%以上	・外国語活動の実践や、北高校留学生や帝京大留学生との交流を通して、英語を使ってコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。 ・授業以外でも、休み時間や給食、清掃活動や学校行事など、あらゆる場面でALTを活用し、生きた英語に触れる機会の充実を図る。	【達成状況】 児童の肯定的回答率 86.8% 【次年度の方針】 帝京大や北高の留学生との交流活動を継続し、児童が積極的に英語でやり取りできるように支援する。また、外国語活動、外国語科の充実を図り、児童が英語を話してみたいと思えるような授業を展開する。また、ALTを活用し、授業以外でも英語でやり取りできるよう支援する。
A9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 「私は、宇都宮の良さを知っている。」 における肯定的回答 ⇒児童 80%以上	・生活科、社会科、総合的場学習の時間など、地域を教材に扱った学習の充実を図る。 ・宇都宮の歴史や伝統文化、産業や特産物などについて理解し、郷土への愛情と誇りを持てるよう指導する。	【達成状況】 児童の肯定的回答率 78.6% 【次年度の方針】 「総合的な学習の時間」で新たに「宇都宮学」が設定されることにより、知識理解を深め、郷土への愛情や誇りを持てる指導を行う。
A10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上	・タブレット型パソコンをはじめとするICT機器の積極的な活用により、情報活用能力の育成を図る。 ・授業をはじめ様々な場面で、新聞や図書資料を気軽に活用できる環境の充実を図る。	【達成状況】 児童の肯定的回答率 84.8% 数値指標より0.2ポイント減である。 【次年度の方針】 ・ICT機器や新聞、図書等を利用した授業を実施し、学力向上につながるようにさせる。授業参観等で児童の学習の様子を知らせる。
A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上	・豊老連をはじめとする地域の高齢者と交流する機会を設け、相手への思いやり、感謝の気持ち、敬う心を育む。 ・時と場に応じた挨拶や言葉遣いができるよう指導を図る。	【達成状況】 児童の肯定的回答率 84.8% 【次年度の方針】 ・今後も、生活科や総合の学習を通して、交流を深め、高齢者を敬う心を育んでいく。また、交通ボランティア等で普段からお世話になっていることも意識付けを図り、感謝の会等でその気持ちが伝えられるようにしていく。

目 指 す 学 校 の 姿	A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 「児童は、環境問題や防災等の「持続可能な社会」について、関心をもっている。」 における肯定的回答 ⇒児童 80%以上	・自然に関する関心を高め、自然とのふれあい体験を重視するとともに、環境に対する問題意識を持たせ、問題解決に取り組む実践的な態度を育成する。 ・総合的な学習の時間等を活用し、環境や国際理解、防災などをテーマとして地域や世界の学習素材を活かしながら、教科の枠を超えた横断的、総合的なカリキュラムの開発・実践を行う。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答率 85.5% 【次年度の方針】 ・教科学習で得た知識を横断的な学習や実生活に生かせるような場の設定をし、特に環境問題や防災に対する意識を高められる活動を、行事や児童会活動に位置づけていく。
	B1 児童は、家庭学習や自主学習の習慣が身に付いている。 【数値指標】 「児童は、宿題など家庭での学習を忘れずにやっている。」 における肯定的回答 ⇒児童 80%以上	・発達段階に応じた家庭学習の内容・方法について、例などを示しながら具体的に指導する。 ・学習用具、テレビやゲームの時間について、学年便り等、様々な機会に家庭に通知し、学校と保護者の共通理解のもと、指導を行う。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答率 90.3% 【次年度の方針】 ・児童が自主的に学習に取り組めるように、具体的な内容や方法を示したり、手本となる取り組みを伝えたりしていき、家庭学習の過程や成果を称賛しながら意欲を高めていく。また、その様子を保護者にも伝える。
	B2 児童は、進んで運動する習慣を身に付けている。 【数値指標】 「児童は、休み時間や放課後などに進んで運動している。」 における肯定的回答 ⇒児童 80%以上	・業間休みや昼休みなど、外遊びや運動、学級等の共遊を推奨し、運動の習慣化を図る。 ・「とよおうサーキット」や各種検定カードの実践、ミニマム達成状況を意識し、個に応じた助言を行うことにより、基礎体力の向上を図る。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答率 81.9% 数値指標より1.9ポイント増で達成している。 【次年度の方針】 ・各種運動検定や児童会を中心とした体力を養う活動を設け、意欲的に運動することを習慣化させ、体力向上につなげていく。また、児童の実態や活動を「学年だより」や「学校だより」を通して、知らせしていく。
	A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	・教育上特別な支援を必要とする児童に対しては、実態把握を行い、合理的配慮が提供できるよう学校全体で支援する体制づくりに努める。 ・校内支援委員会の組織を活用し、かがやきルームの効果的な運営や、支援チーム等の支援体制を整えとともに、学校と家庭及び関係機関との連携を推進する。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答率 100.0% 【次年度の方針】 ・校内支援委員会での話し合いを基に、学校全体で組織的な支援体制を構築していく。一人一人に寄り添い、きめ細かな配慮ができるよう支援チームの体制を整え、家庭や関係機関との連携を図りながら特別な支援を必要とする児童へ関わっていく。
	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上	・全教職員共通理解の下、いじめは絶対に許されないことを指導するとともに、児童の小さな変化にも心を配り、チームで問題解決に取り組む。 ・道徳科や学級活動などで、いじめや生命尊重、自他との関係を題材とした授業を行い望ましい集団作りを心掛ける。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答率 97.2% 【次年度の方針】 ・全教職員共通理解の下、いじめは絶対に許されないことを指導するとともに、児童の小さな変化にも心を配り、チームでの問題解決に取り組む。 ・道徳科や学級活動などで、いじめや生命尊重、自他との関係を題材とした授業を行い、望ましい集団作りを心掛ける。

A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 「先生方は、一人一人を大切にし、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上	・欠席状況共有シートを活用し、全教職員が共通理解のもと不登校防止に積極的に関わるとともに、兆候が見られた場合はケース会議を開き、全校体制で支援する。 ・日常の児童観察、Q-U調査、いじめアンケート、教育相談を活用し、職員間の情報交換・共有、保護者との連携を図り、不登校を未然に防ぐよう努める。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 95.5% 【次年度の方針】 ・Q-U調査やいじめアンケートなどの情報を活用して、児童一人一人の理解に努めていく。全校体制で不登校を生まない支援を心がけ、職員間で情報を共有し、保護者との連携を密にしながら、不登校対策を進めていく。
A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	・個々の実態に応じた支援を組織的、計画的に行なえるよう、支援委員会等を活用し、指導を行う。 ・専門機関との連携を図り、日本語指導教師、日本語指導ボランティア等の活用を図る。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答率 100.0% 【次年度の方針】 ・外国人児童の実態に応じた、適切な支援を組織的に行えるよう計画を立てていく。専門機関とも連携を図ることで、より効果的な支援になるように努めていく。
A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 「私は、今の学校が好きです。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上	・地域の教育力を取り込みながら、児童の主体的な活動を推進し、児童が学校生活全体を通して、成就感や達成感を持つことができるように、一人一人に応じた支援や場の設定を行い、よさを認め伸ばす指導・支援に誠意をもって取り組む。 ・「自分たちが学級・学校をつくる」を合言葉に、児童会や委員会活動、学級の係活動などの場で、児童の自主性や創造性、協働性を育む。	A	【達成状況】 児童の肯定的回答率 84.5% 数値指標より05ポイント減で達成しなかった。 【次年度の方針】 ・児童会や縦割り班活動を通して、児童が活躍できる場の設定をし、達成感や成就感を味わわせていく。また、一人一人の居場所づくりを進めていくことで安心して学校生活が送れるよう支援していく。
A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上	・授業のねらいを明確にし、まとめや振り返り活動を適宜設けることで、育むべき資質・能力を明確にした学習活動を行い、学力向上に努める。 ・学習内容の工夫、指導法の改善、効果的な教材の使用や指導体制・指導形態の工夫を行い、より分かりやすい授業を展開し学力の向上を図る。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 95.4% 【次年度の方針】 ・4月からスタートする新学習指導要領に対応した指導の充実に努めるとともに、まとめや振り返り活動の工夫を図ることで、習熟度を高めたり学習意欲の向上を図ったりしていく。

A 19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	・全教職員が学校経営の理念・方針等を共通理解し、児童のよさを認め励みながら、同一歩調で協力して学習や諸活動の教育に当たる。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答率 94.9% 【次年度の方針】 ・常日頃からコミュニケーションを図り、協力して教育活動に当たれるように各自が専門性を十分に発揮できるようにしていく。
A 20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」における肯定的回答 ⇒教職員 80%以上	・学校スタッフの職務と勤務について共通理解を図り、学校の課題への対応や業務の効率的な実施に取り組めるよう教職員の協働体制を構築する。 ・校務運営上、必要な情報を共有するための場を設定し、教職員、専門性を有する学校スタッフの円滑なコミュニケーションを図る。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答率 92.3% 【次年度の方針】 ・教職員の協働体制を構築し、業務の効率化を目指した取組を実践していく。また、業務の効率化に努め、リフレッシュデーなどを学年ごとに設定していく。
A 21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 「学校は、小学校と中学校が連携した「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」における肯定的回答 ⇒保護者 80%以上	・地域学校園のビジョンに基づいて、各小中学校と連携しながら学力の向上や豊かな心の育成、健やかな体の育成に努める。 ・小中あいさつ運動、運動会での交流や、保健指導、給食指導、図書館教育など、連携を図りながら指導に当たる。	B	【達成状況】 保護者の肯定的回答率 81.2% 昨年より3.2ポイント減であるが、達成している。 【次年度の方針】 ・地域学校園のビジョンに基づいた実践を引き続き行っていく中で、保護者・地域への啓発活動を行う。小中一貫の取組を積極的に発信していくことで理解を得られるように努めていく。
A 22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」における肯定的回答 ⇒地域住民 85%以上	・地域の文化財や特色を生かした教育活動をさらに充実させるために、年間計画の見直しや事前の計画的な準備、打合せを十分に持ち、効果的な体験活動やふれ合い活動を進めて、地域を理解し親しむ児童を育てていく。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 90.0% 数値指標より5ポイント増で達成している。 【次年度の方針】 ・年間計画の見直しや事前の計画的な準備、打合せを十分に実施し、効果的な体験活動やふれ合い活動を進めて、より地域を理解し親しむ児童を育てていく。

A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 における肯定的回答 ⇒保護者 85%以上	・学校行事や授業において、地域の人材・施設等を活用した活動、校外学習などを計画的に取り入れ、充実した教育活動が展開できるよう配慮する。	B 【達成状況】 保護者の肯定的回答率 89.3% 数値指標より4.3ポイント増で達成している。 【次年度の方針】 ・学校行事や授業において、地域の人材・施設等に協力を呼び掛け、充実した教育活動が展開できるよう配慮する。実践できたことを「学年だより」や「学校だより」等で紹介し、協力してくださった方々に感謝の気持ちを表現できるようにする。
A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 における肯定的回答 ⇒保護者 80%以上	・毎月の安全点検を確実にを行い、また、危険箇所等については、迅速な修繕・改善を行う。 ・来校者、保護者の自家用車乗り入れ制限の周知や、学校開放等の行事での見回りの協力依頼など、地域・PTA・縁下会と連携・協力を図る。	B 【達成状況】 保護者の肯定的回答率 86.4% 数値指標より6.4ポイント増で達成している。 【次年度の方針】 ・安全点検を確実に実施できるように、協力し合う。 ・メール配信を利用し、児童の安全が最優先になるように連携・協力を呼び掛ける。
A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。 【数値指標】 「児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上	・タブレット型パソコンやプロジェクタ、実物投影機、デジタルカメラ等の各種ICT機器、様々なジャンルの図書資料の整備、管理を行い、また、デジタルカメラの積極的な活用により、情報活用能力の育成を図る。 ・授業をはじめ様々な場面で、新聞や図書資料を気軽に活用できる環境の充実を図る。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答率 84.8% 数値指標より0.2ポイント減で達成していない。 【次年度の方針】 ・ICT機器や新聞、図書等を利用した授業を実施し、学力向上につながるようにさせる。授業参観や「学年だより」「学校だより」などで児童の学習の様子を知らせる。
B3 教職員は、学校課題等に関する研究に主体的に取り組んでいる。 【数値指標】 「教職員は、主体的に授業研究に取り組み、同僚性を育みながら、指導法の工夫改善に努めている。」 における肯定的回答 ⇒教職員 80%以上	・学校課題に基づいて、研究のねらいを明確にしながらお互いの授業を参観し合い、指導法について意見を交わすことによって授業改善に努める。 ・高い自己研鑽意識に基づく主体的な自己研修と洗練された同僚性に基づく協働的なグループ研修の融合を図り、互いに学び合う職場づくりを推進する。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答率 100.0% 【次年度の方針】 ・教職員が互いの授業を参観し合うことで、授業改善に積極的に取り組んでいけるよう研修体制を構築していく。また、協働的なグループ研修の機会を設け、互いに学び合える職場づくりを推進していく。

本校の特色・課題等	B4 学校は、縦割り班活動や児童会活動などを工夫し、児童が、自分のよさや可能性を発揮し、他者と協調しながら充実した学校生活が送れるような取組を行っている。 【数値指標】 「児童は、縦割り班活動や児童集会などのいろいろな活動で、みんなと協力しながら、進んで参加している。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上	・「自分たちが学級・学校をつくる」をテーマに、児童会や委員会活動、学級の係活動などの場で、児童の自主性や創造性、協働性を育む。 ・縦割り班活動や縦割り清掃を中心とした異学年交流を通して、リーダーシップとフォロワーシップ、互いに他を思いやる心を育む。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 90.1% 【次年度の方針】 ・児童の主体性や自主性を育むために、高学年児童への声掛けを積極的に行い、有用感や活動への達成感を持たせていく。 ・縦割り班活動を中心として、異学年交流を充実させ、協働性や創造性を育む場の設定をしていく。
-----------	---	--	---	--

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

全体アンケートでは、肯定的回答（「とても思う」と「まあ思う」を合わせたもの）が数値指標を達成した項目は29項目中22項目であった。7項目において達成できなかったが、-0.2ポイントが4項目、-0.5ポイント、-1.2ポイント、-1.4ポイントが1項目であり、また、5項目が新しい質問だったことを考えると、概ね達成できたのではないと思われる。

A1「児童は、進んで学習に取り組んでいる。」については、児童94.0ポイントで数値指標を達成しており、教職員は2.4ポイント増の100ポイント、保護者も7.9ポイント増の94.1ポイントであった。今後も、学校だけでなく、家庭と連携・協力を図りながら、学習習慣が身につく、主体的に学ぶような指導を心掛けていく。

○ A4「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」については、児童91.5ポイントで数値指標を達成し、他の教職員、保護者、地域住民も、昨年の数値を上回り、評価は上がっている。日頃の指導に加え、生活向上委員会を中心とした「あいさつ運動」や、学級ごとの取り組みの成果の表れと考えられるが、地域や保護者、来校者に対する挨拶には不慣れな部分が見られるため、今後も家庭と連携しながら、挨拶の仕方や意義を再確認するとともに、日常お世話になっている方々などへの挨拶ができるよう全教育活動を通して指導を展開していきたい。

A9「児童は、宇都宮の良さを知っている。」については、「総合的な学習の時間」で次年度から扱う「宇都宮学」において、教材研究や指導法の工夫をしながら、宇都宮の良さに触れ、知識理解を深め、また、郷土について学習を進めていくことで、郷土への愛情や誇りを持てるようにする。

A17「学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。」については、ウォークラリー遠足の変更が影響したためか、昨年度の92.2ポイントから84.5ポイントに減少した。達成感や成就感を味わい、明るく生き生きとした雰囲気で生活できるよう、学級や学年、全校行事等、児童一人一人が活躍できる、様々な場を設定していく。

A20「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」については、教職員92.3ポイントで、昨年度より14.3ポイント増となっている。働き方改革が浸透し、行事等の改善を図り業務の効率化につなげたり、また、時間を意識した勤務を心掛けたり、学年ごとにリフレッシュデーを設けたり、意識の高まりが見られた。

7 学校関係者評価

- ・A4「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」については、評価は上がっており、挨拶が上手にできる子が増えていることが実感できる。今後も「あいさつ運動」や日頃の声掛け等で、こちらからも積極的に関わっていききたい。
- ・A22「学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。」A23「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。」A24「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」等の項目については、地域と関係が深い内容であるので、学校と連携を図りながら協力していきたい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

アンケート内容の大幅な変更があったが、概ね目標を達成し、各方面からも一定の評価が得られたものと考えている。
令和2年度もさらなる教育活動の充実を目指し、特に下記のことを重点的に取り組んでいく。

- ・「かしこく なかよく たくましく」を合言葉に、確かな学力の向上、豊かな心の育成、健やかな体の育成を目指し、全教職員の共通理解のもと、教育活動の見直しと改善を図る。
- 地域協議会や学校園、児童会による「あいさつ運動」などを通して、挨拶することの良さを実感できる児童を育てていく。また、教職員や保護者、地域住民などの大人から進んで挨拶したり言葉かけをしたりして、自然に挨拶ができるような雰囲気づくりに努めていくために、連携・協力を働き掛ける。さらに、きまりやマナーを守った生活を送れるように、家庭や地域の理解を深め、協力を得られるような取組を行う。
- ・特色ある学校づくりや、保護者や地域協議会との連携を一層進めるために、信頼関係をより確かなものに強化しながら、地域の協力を得た取組を展開する。地域の人材、各種事業所、自然環境などの様々なものを有効活用し、「地域から学ぶ学校」づくりを推進する。また、各種たよりやホームページ等での情報発信を充実させるなど、学校の取組をより分かりやすく伝えるための方法・内容の改善を図り、さらなる理解・協力につながるようにする。さらに、生活科・社会科・総合的な学習の時間を中心に、地域を教材に扱った学習の充実を図ることで、児童の「宇都宮の良さ」の理解・深化、郷土への愛情や誇りを持つことにつなげていきたい。
- ・児童会活動や学級活動などにおいて、児童の主体的な活動を推進し、達成感や成就感を味わわせ、学校の雰囲気を活気があり、明るく生き生きとしたものにできるよう努める。また、個に応じた支援を行い、一人一人の居場所づくりを進め、安心した学校生活を送れるよう支援を行う。
- ・教職員の高い同僚性、研修意欲に基づき、自己改革する教職員、互いに学び合う教職員を目指し、資質・能力のさらなる向上を図る。